

## 2 - 3 重点事業評価

事業名

国民読書年における読書推進活動の展開

### (1) 事業の概要

#### ● 対象（誰を・何に）

これまで読書に親しむ機会の少なかった幅広い層の県民

#### ● 意図・目的（どのような状態になることを狙っているのか。結果どうなるのか。）

2010年国民読書年という機会を捉えて、読書に親しむための講演やイベントを開催することにより、幅広い層の県民に読書の普及、推進を図る。

#### ● 具体的取り組みの概要

①夏休みに子どもの本のキャラバンカー、秋の読書週間中に「国民読書年記念講演会」などを開催し、読書への関心を高める機会を提供する。

②利用者から「図書館から借りて、もう1度読みたい本」の投票を募り、利用者の選ぶ「ふくろうの森の図書館大賞」を決定する。

③利用者が選ぶ100冊の本コレクションを募集し、図書館の蔵書として備える利用者参加型のイベントを行う。

### (2) 指標（本年度の目標）

項目（指標）	本年度の達成目標（数値）	成果
国民読書年記念イベントへの参加（投票）人数	500人	387人

### (3) 事業評価（自己評価）

自己評価	C	国民読書年記念イベント参加者は目標とした人数500人に対して387人と、8割弱の達成にとどまった。特に利用者参加型の事業は斬新な試みだったが、参加者数としては、期待した成果を得ることが出来なかった。
------	---	---

A 目標が十分に達成された

B 目標がある程度達成された

C 目標の達成が不十分である

D 目標を達成することがほとんどできなかった。

項目	項目の解説	状況
必要性	利用者ニーズまたは図書館の使命や方針に照らして、妥当か	国民的な読書推進運動年という機会を捉え、幅広い層の県民に対するサービスの拡充という当館の方針をより推進するために、必要度の高い事業だった。
有効性	期待される成果と実際の成果との関係。実績の向上がみられたか	子どもの本のキャラバンカーと国民読書年記念講演会は各々205名、144名と多くの参加者を集め、読書に結びつける効果があった。利用者参加型の「ふくろうの森の図書館大賞」の投票は36件、100冊の本コレクションは応募が2件と低調であったが、貸出の利用や応募コレクションの新鮮さという点では、成果はあった。
効率性	事業計画に対する内容や量、業務の運び方、進捗管理の妥当性等	子どもの本のイベントと講演会は、ほぼ計画通りに実施することができ、一定の成果を得たが、「ふくろうの森の図書館大賞」は投票対象図書を選定や投票方法については、反省すべき点があった。

### (4) 次年度の展開

方向性・問題点・改善点など

国民読書年行事の結果等を踏まえ、こどもたちからお年寄りまで、多くの県民から読書に親しんでもらうために、利用者ニーズにより合致したタイムリーかつ、魅力あるテーマ設定を行うことにより、効果ある企画展、講演会等を実施する。

(5) 図書館協議会意見

本事業についても、PR不足であるとの指摘があった。また、課題が難しすぎたのではないかとの意見が複数あった。逆に、課題の難度、達成度を考慮すると、B評価でよいとの意見もあった。成果が現れにくい事業であることも指摘されている。

事業の意義については委員全員が認めており、次年度以降も継続することが重要であると複数の委員が指摘している。事業の展開方法については、気軽に参加できる講演会、図書館入口の充実、出前読み聞かせ、お薦め本10冊の募集等さまざまな提案があった。また、県立図書館が単独で取り組むことへの疑問も寄せられている。